

第 14 回 SC 国内分科会委員長会議報告

下記の内容で第 14 回 SC 国内分科会委員長会議を開催しました。

- ❖ 日 時 2012 年 7 月 20 日 (金) 13:30～17:00
- ❖ 場 所 東京トラック事業健保会館 4 階 第 2 会議室
- ❖ 出席者 各 SC 国内分科会委員長, A3 本部委員長, JNC 委員長, 副委員長, 幹事団, 事務局他

❖ 議事内容

0. 開会挨拶: 田井委員長

- ❖ 去年の 3.11 から早 1 年 4 ヶ月経過し、各電力の火力電源も十分ではないが回復して来ている。アジアで 3 番目のメンバー数となっており、ご協力について感謝申し上げます。
- ❖ 伊藤 A3 委員長も TC メンバーとなり、積極的に本部の活動にも日本として取り組んでおり、今後ともこのように取り組んで行きたい。
- ❖ キーノートスピーチは、中国（アジア）からで慣例を破り、質疑応答も含め中国語で行う予定。
- ❖ 今回のパリ大会では、横山先生がオープニングのパネルディスカッションで発表する予定である。

1. 本部執行委員会 概要: 田井委員長

- ❖ 4 月 25 日に南アフリカ・ヨハネスブルグで開催された本部執行委員会の概要が紹介された。
 - TC 報告 4 方向の **Strategy Direction** で活動を進めている。スマートグリッドに関して特に注力し始めている。高電圧中心の **CIGRE** が中圧の配電クラスを扱う **CIGRED** との連系活動との強化を行う。
 - **CIGRE** メンバーに関して変更の紹介があった。伊藤 A3 本部委員長、C4 本山委員長が本部の幹事に就任予定。
 - **CIGRE** の収支報告で、超過支出に関して、十分な説明が無く再度報告されたが現時点でもまだ結論が出ていない。
 - **CIGRE President** に対してフローリッヒ TC 委員長、エスメラルド財務担当、ゲーリング委員が立候補。
 - TC 委員長の立候補は、マーク・ワルドロン（前 A3SC 委員長）1 名の状況。
 - アジアから上記の執行委員会メンバーに対しても立候補があってもとの指摘があった。
 - 初日のパネルディスカッションに関しては、一人 20 分程度のプレゼンと質疑応答となる予定。
 - **History of CIGRE I** で大幅な赤字もあり、**History of CIGRE II** に関しては本では配布せず CD で配布する予定。
 - 会員数に関しては、ブラジル、中国、日本・・・の順となっている。

2. 本部技術委員会 (Technical Committee) の報告: 伊藤 A3 本部委員長

- ❖ 第 59 回@スペイン・バルセロナで開催された TC 委員会の内容に関して紹介があった。TC プロジェクトは、これまで UHV が主体であったが、今後は C グループの系統性能に注力する。

HVDC に関してはこれから調査して進める。配電系統に関して、CIRED と CIGRE が協調して活動を進める。CIRED は円卓会議と論文発表が主体で WG 活動が無い点が CIGRE と異なる。

- ❖ 次回（2013 年）シンポジウムは、ニュージーランドで開催、組織委員長は A3、B2 の本部委員長が就任予定。

3. AORC マレーシア会議について： 服部幹事

- ❖ 再生可能エネルギーに関してマレーシアから C3 に関して協力依頼があった。タイでの昨年の活動、中国の会員数の増大状況が報告された。
- ❖ AORC の次期議長国は、タイで内々に決定。次回パリ大会で承認される。
- ❖ 電中研・渡辺氏に座長を努めて頂き、非常に流暢な英語で座長を務めて頂いたことが紹介された。
- ❖ AORC の Constitution に関して NC を持たない国に関しての参画に関して受け入れるように変更になったことが報告された。

D2 岩崎委員長：中国の CIGRE メンバーになることのステータスに関してお聞きしたい。

服部委員：ボトムアップの動きであり、海外に行く機会が持ち易くなる事が大きな要因であると思われる。

4. 2012 年 CIGRE 優秀日本論文の選考結果： 福井幹事

- ❖ 過去最大 30 件の Session paper が 2012 年のパリ大会で受け入れられたことが冒頭福井幹事から報告された。
- ❖ 優秀論文の選考結果に関して説明があった。本日の懇親会で優秀日本論文の表彰式を行うことが報告された。

5. 2012 年第 44 回パリ大会準備状況について： 永原幹事

- ❖ 現在の JNC の第 44 回パリ大会に対する準備状況が報告された。
- ❖ 本部の意思決定に深く関与するメンバーについて JNC パーティに出席頂く方針とした。
 - 現在 B3、C3、C4、D1、D2 の本部委員長が出席予定であることが報告された。
 - ◇ 米国・中国のパーティが、JNC パーティと同じ月曜日に開催される情報があった。
 - 各国内委員長から本部委員長出席をプッシュすることに関しては OK か？との質問があり、是非お願いしたいと回答した。

6. 若手技術者支援制度に基づくパリ大会への派遣について： 今川幹事

- ❖ 若手技術者支援金を総会で承認頂き、これについて若手技術者支援に関して、A1 1 名、C1 2 名から応募されたが応募用件を満たさず、今回は現状のところ該当者無しの状況である旨報告された。

7. 2013 年以降の SC ミーティング日本開催について： 福井幹事

- ❖ C3、C6 に関しては 2013 年に開催される予定である旨確認された。2015 年以降に関してまだ決定していないが、2 件を目標に日本での開催を計画されたい旨説明があった。

8. 日本 CIGRE 国内委員会理事会開催について： 上原幹事

- ❖ 11 月 19 日に予定されている理事会に関して概要を説明。理事の方に御参画頂く旨説明があっ

た。

9. CIGRE 会員数の状況と会員数増大について（お願い）： 永原幹事

- ❖ 等価会員数 800 名を目標に会員数増大に関してご協力をお願いした。
- ❖ 各分科会の構成員が、50%以上が CIGRE 個人会員になるようお願いした。若手会員の継続的な会員としての参画並びに活動に関してお願いした。

10. 2014 年 S C 日本代表レギュラーメンバー交代の進め方について： 永原幹事

- ❖ 今後のレギュラーメンバー交代の進め方に関しては、2 年×3 回=6 年を任期として JNC として考えている旨説明した。
- ❖ 2014 年に 5 人の委員長が交代する予定。(B1、B5、C1、C2、C6) 候補者の検討を各委員長へ依頼した。

11. 本部よりの TOR に関する対応状況について： 今川幹事

- ❖ 本部の ToR に基づき、日本からの参加者に関して WG のレギュラーメンバーもしくはコレスポンディングメンバーでありながら CIGRE の個人会員でない方の個人会員になる事をお願いした。

12. 第 44 回 CIGRE パリ大会報告の電気学会 B 部門論文誌への投稿原稿（案）作成のお願い： 今川幹事

- ❖ 今回のパリ大会に関する広報活動並びに電気学会 B 部門への原稿に関して各委員長に原稿執筆を依頼した。(大会終了後 1 ヶ月を目安に 10 月 1 日 limits)
- ❖ 田井委員長：電気学会の論文のようなものに写真は、可能か？・他の媒体では写真の掲載を考えている。(今川幹事)
- ❖ CIGRE の知名度を上げるような活動が必要ではないか？文字だけでは読んでくれないのでは無いか？工夫が必要。3.11 後の多大な損失について、CIGRE を通じてどのように訴えるかを考えることも大切ではないか？(岩崎 D2 委員長)
- ❖ 1921 年に CIGRE 100 周年になると思うがこれに対応したことを考えておいた方が良いのではないか？(岩崎 D2 委員長)

13. 各 S C における活動紹介、他： 各 S C 委員長殿： 各 S C 準備資料

- ❖ 各 S C 委員長から、各 S C の活動状況と予定等について、今年 2 月の JNC 総会以降の変更点を中心に説明。
- ❖ 主な説明内容は以下のとおり（配布資料と重複する内容は省略。また、S C 会議日本招致もしくは可能性については、別掲の表参照）。

A1：日立三菱水力からメンバー 1 名追加。日立三菱水力は、事業維持会員として入ったのか？
(田井委員長)

分散電源の規模、大きさは？(横山副委員長) 風力の発電機 (松本委員長)

A2：来年のパリ会の論文としては、NCA が 1 件採択。パリ大会では、5 件のコントリビューションを日本から予定。

A3：ニュージーランドで 2013 年シンポジウム開催なので 2015 年日本での開催は難しい。
(伊藤 A3 本部委員長)

B1：海底、洋上風力、直流がキーワード。次回インド・ニューデリーで AORC の開催予定。

B2：パリ大会。スペシャルレポートでも撤去電線に関しても日本での寿命推定を元に各国に

対して質問が出ている。新規 ToR に関しても本件の内容で承認される見込み。

B3: 国内分科会 38 名体制。B 部門大会では、若手技術者への CIGRE の PR も考えている。(終わったら電気学会の web で出しては?) (田井委員長)) 幹事会のメンバーの半数程度が交代。

B4: パリ大会のコントリビューション 10 件を予定。

B5: 配電システムのループ化、系統安定化が話題になってきている。パリ大会のコントリビューションは 10 件を予定。システムを扱うグループで人材的に不足は無いか? (田井委員長) IEC61850 を導入した新興国で、早く実績が出来ており日本が難しい状況となっている。

C1: パリ大会に 3 件 Session paper 提出。リスボンコロキウムに対しても論文アブストラクトを 1 件提出。

C2: パリ大会で東京電力から震災の件に関して報告。

活動は全般的に活発でない。

D2 委員長から震災の件に関して報告する予定であり、事前に B5、C2、C5、D2 間で調整する必要がある。横山先生もオープニングパネルで似たテーマでパネルに参画する。情報シェアについて必要とのコメントを頂いた。

C3: 2013 年 10 月に EMF コロキウムを開催予定。

C4: 特記事項なし。

C5: 大震災後の需給に関してパリ大会で報告するので情報のシェアが必要。リスボンのシンポジウムに対しては論文提出を予定していない。ダイヤモンドレスポンスに関して、ゲーリング氏が論文を出している。

C6: 2013 年に横浜でコロキウム開催予定。

D1: 2011 年 A2 とコロキウム開催。WG が 25 グループあり、活動。新規 4 件活動。

D2: 日本から 20 名パリ大会に出席予定。震災関係で通信、需給関係の発表を行う。

- ❖ 幹事から、C1、C2、C5 の中国シンポジウムに AORC が併設される可能性があり、コントリビューション依頼が直前に来る可能性があることを報告し、AORC 開催の際には該当 SC に協力頂くよう依頼した。

1 4. 閉会挨拶: 横山副委員長

- ❖ 定刻終了に協力頂きありがとうございました。パリ大会のコントリビューションに関しても多数計画されていること更に若手の参画を宜しくお願い致します。